

国語 第1学年 わけを はなそう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。自分の考えとその理由が伝わる順に話す。目標・評価規準・単元計画・本時の活動に対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「わけを はなそう」 教材名「わけを はなそう」

2 単元の目標

言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。〔知識及び技能〕(1)ア)

相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えることができる。(A(1)イ)

自分の考えとその理由が伝わる順に話す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①自分の考えとその理由が伝わる順に話す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

自分の考えとその理由が伝わる順に話す。この教材では、自分の選択と理由、友達の質問を受けた言い直しの記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

選んだ物やしたことの絵の横に、理由になる場面の絵や短い言葉を置く。教師が理由を決めて補わず、本人の経験から話せる内容を引き出す。想定する難しさは、理由を尋ねても選んだ物の名前だけを繰り返す。評価では、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えているかを、自分の選択と理由、友達の質問を受けた言い直しの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。学校生活で自分が選んだことを話題にし、考え・理由の順に短く話す。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○学校生活で自分が選んだことを話題にし、考え・理由の順に短く話す。聞き手が理由

を言い返し、話し手が足りない説明を補う。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導（2/2）

（1）本時の目標

相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（A（1）イ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。

○「なぜそう考えたのか、どの出来事を話すと伝わりますか」

【めあて】自分の考えとその理由が伝わる順に話す。

予想される児童の反応：・選んだことだけでなく、選んだわけも伝えたい。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「なぜそう考えたのか、どの出来事を話すと伝わりますか」

学校生活で自分が選んだことを話題にし、考え・理由の順に短く話す。聞き手が理由を言い返し、話し手が足りない説明を補う。

聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。

予想される児童の反応：・選んだことだけでなく、選んだわけも伝えたい。

・わけを聞くと友達の考えが分かった。

指導上の留意点：選んだ物やしたことの絵の横に、理由になる場面の絵や短い言葉を置く。教師が理由を決めて補わず、本人の経験から話せる内容を引き出す。

想定する難しさ：理由を尋ねても選んだ物の名前だけを繰り返す。

評価では、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えているかを、自分の選択と理由、友達の質問を受けた言い直しの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。

（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

自分の選択と理由、友達の質問を受けた言い直しの記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・わけを聞くと友達の考えが分かった。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「なぜそう考えたのか、どの出来事を話すと伝わりますか」。中央は、自分の選択と理由、友達の質問を受けた言い直しの記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

